

私立幼稚園に於ける健康管理の一形態

栄光幼稚園

日 名 子 太 郎

学校教育において健康教育の占める部分は可成り大きいものである。しかし教育体系の内では幼稚園程この役割の大きいものはないであらう。

それにも拘らず今日一年一回の定期身体検査すら充分に行われていない状態である。

幼稚園の健康教育の目的は幼児を常に疾病から守り、健康・安全・幸福な生活、子供達にとつて初めての団体生活を健全に行わしめるにある。

それには、家庭の協力の下に、幼児は勿論保護者もその対象に含め、絶えざる管理を行つて初めて為し得るのである。

本園ではこの点に着目し、此処三年来、各科医師の援助協力の下に、この種の管理を行つて来たので、その形態並びに結果につき報告申上げる次第である。

一、方 法

今迄は、特に診療室を設ける程の余裕を持たなかつたので、附近の理解ある医師の協力を求め、毎月のカリキュラムと照合の上、医師の来園を仰ぎ検査を行つて来た。

内 科……毎月一回

ツベルクリン 年二回

レントゲン撮影（ ）（ ）

検 便（ ）（ ）

眼 科……毎月一回

耳鼻咽喉科……学期 毎

歯 科……毎年一回

身体計測……毎月一回

右各検査の前日又は前々日には必ず保護者へその旨の通知をし、出来る限り、欠席の無い様、又医師に特に相談の必要のある父兄はその時間に来園の上、医師と相談を行う様にして居る。「検査の結果は、第一図の如き用紙に記入の上、家庭に通知し治療の要あり」

るものは出来る限り早期に治療する様に勧告する」。

お知らせ

月の検査の結果は左の通りですから
お宅でも治療に御協力下さい。

氏名	項目	病名	治療
	内科	アデノイド 扁桃肥大 扁桃腺炎	要 要 要
月日	眼科	結膜炎	要 要
	耳鼻科	耳垢 耳道炎	要 要

栄光幼稚園

のは、この管理に必要な経費の点である。

私立では、特に経営面の問題もあるので、理想と現実の矛盾は此処でも当然考えられるのであるが、本園で実施した結果から見ればこの点は、余り懸念するに当らない。

本園の経費処理の方法は、PTAと協力して、予めPTAの予算案中に「医師謝礼」の項を設け、診療の都度お礼をする様に居る。今後は保健費を設け（月額約五〇円程度）更に徹底を期したいと存じて居ります。

荷、ツベルクリン、レントゲン、その他の予防接種はその都度実

第一図 検診結果家庭連絡票

本園の台帳にも
洩れなく記載し、
（第二図）各科の
診療時に、医師は
常にどの科にも目
を通し、参考と為
し得る様、整理し
てある。

三、経費

以上述べた方法
で最も問題となる

二、処理

費を徴集する。

四、統計の結果

本園に於ける管理の結果を最近二カ年間分につき整理したものが
第一、二表である。

統計の結果は、年間を四つの時期、即ち、

- 1 入園時
- 2 夏の休み前
- 3 夏の休み後
- 4 終了時

に分け、その時期における各科の診療の結果を被実施者（在籍者数から欠席者数を減じたもの）に対する百分率で表わした。

これによると、

(一) トラコーマは昭和二十六年、二十七年、二十八年に於いて完全に消滅し、その後は発見されていない、又その他の眼疾も前ほど悪質のものは無くなつて来ている。（この間、同一の医師による）

(二) 扁桃腺肥大とアデノイドの両方をもつ者が可成多く、一方のみのは僅か十パーセント程度である。しかし、これらの保有率は意外に多く、昭和二十六年、二十七年、二十八年の統計の約十七パーセントに比し二―三倍に上つている。

しかしながら、一方これらが差程大きく影響しないと信じられる一つの資料として、第三、四表を提出する。

第三表は、最近二年間の本園の精勤者（欠席年間八日以内）

第二図 健康管理原簿用紙 (1/2)

姓名		() 歳 (昭和 年 月 日生)		項目					
月日	身長	体重	胸圍	眼科	耳咽科	鼻喉科	内科	ツ反応	
4									
5									
6									
7									
8									
9									
10									
11									
12									
1									
2									
3									

につき、各科の結果を集計したもので、二カ年間を通じ、十九名中八名(四二%)は扁肥又はアデの何れかを有している。
 第四表は欠席の多い者(欠席日数年間四十日以上)につき、集計したもので、これによると十四名中六名(四三%)が扁肥

(表)

年	上								乳法	処置	未処置	合計								
	8	7	6	5	4	3	2	1												
月	E D C B A				A B C D E				上											
	E D C B A				A B C D E				下											
日	8	7	6	5	4	3	2	1	1	2	3	4	5	6	7	8	計	()	()	

予 防 接 種	X ~ Ray 所 見	医師よりの指示

(三) 又はアデの何れかを有しているわけで、両者殆んどその保有率は同一である。
 四表によると、内科では、頸部リンパ腺腫脹が意外に多くこれにつき、第三

(裏)

時期	入園			夏の休みの前			夏の休みの後			修了		
	一年保育	二年保育	三年保育	一年保育	二年保育	三年保育	一年保育	二年保育	三年保育	一年保育	二年保育	三年保育
眼科	12.5	28	0	2.3	0	0	5.6	0	30	3.5	0	30
炎症	5	0	0	2.3	0	0	1.9	9	7	3.5	0	3.3
角膜	5	0	0	2.3	0	0	5.6	0	3.5	3.5	0	2.2
耳科	7.5	31	20	7.1	20.0	40	—	—	—	3.5	21.7	30
慢性副鼻腔炎	7.5	31	20	7.1	20.0	40	—	—	—	3.5	21.7	30
扁桃腺肥大	35	81	80	47.6	28.5	40	—	—	—	40.3	61	60
咽喉炎	17.5	31	20	31.0	20.0	0	—	—	—	31.5	48	40
耳垢栓塞	7.5	15.4	40	5.0	20.0	20.0	—	—	—	1.7	9	10
その他	2.5	0	0	5.0	0	0	—	—	—	1.7	0	0
内科	57.5	54	40	31	14.2	0	24.5	9	0	22.8	9	0
頸部淋パノ腺腫脹	57.5	54	40	31	14.2	0	24.5	9	0	22.8	9	0
その他	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1.7	21.7	20
科	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
要注	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
意	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
ツベルクルン	—	—	—	—	—	—	15	9	20	14	—	—
反応	—	—	—	—	—	—	1.9	0	0	1.2	—	—

第一表 昭和26年度栄光幼稚園健康管理統計

精勤者中「頸部リンパ腫脹のもの」十九名中二名(一〇・五%)
 と大きなひらきを示している。
 欠席の多いもの 十四名中七名(五〇%) (要) 栄養要注意又は身体虚弱者も

時 期	入 園			面 全			後 全			了 全			
	一年保育	二年保育	三年保育	一年保育	二年保育	三年保育	一年保育	二年保育	三年保育	一年保育	二年保育	三年保育	
眼	異常なきもの	% 86	% 90	% 50	% 85.7	% 85.6	% 94.4	% 96	% 87.6	% 88.2	% 86	% 87.7	
	急性結膜炎	4	0	0	2.3	3.0	0	0	2.5	0	14.0	2.4	
	ロホー性	5	10	50	8.7	10.0	50	4.4	7.5	9.0	0	7.4	
	トラコーマ	2.5	0	0	1.6	0	0	0	0	0	0	0	
	その他	2.5	0	0	1.6	1.7	0	0.8	2.5	0	0	1.6	
	耳	異常なきもの	28.4	40	17	31	55.7	47.0	52	54.8	50	25	52
		慢性副鼻腔炎	14.8	14	17	14.6	5.7	14	8.1	1.0	20.6	25	7.4
		扁桃腺肥大	54.3	60	70	57.0	36.3	40	40	39.2	44.1	75	48.7
		下顎ノイセ	54.3	50	70	53.7	36.3	40	36.3	6.4	35.3	62.5	17
		耳垢	4.2	3	0	4.0	8.4	8	8	4.7	8.2	3	3
		その他	0	0	0	0	2.2	7	7	1.3	1.0	3	1.5
内		異常なきもの	83.3	75	86	82.4	80.9	97.6	92.6	90.6	84.2	100	89.4
		頸部淋・膜腫脹	1.2	10	0	3.8	10.0	0	2.9	7	10.5	0	7.6
		扁桃炎	2.4	0	0	1.5	0	0	0	0	0	0	0
		ヒゲミツA.D	9.5	5	0	7.6	4.5	0	0.7	0	0	0	0
		ホルツェム	1.2	5	14	3.0	0.8	1.1	1.5	0	2.6	0	0.8
	その他	10	10	14	10.0	9.4	8.7	2.9	0	10.5	0	3	
	要 注 意	15	15	0	14	7.0	10	10	1.0	0	0	0	
	ツベルクルン反応	5.1	0	0	10	10	9	5.7					

第 二 表 昭 和 2 7 年 度 栄 光 幼 稚 園 健 康 管 理 統 計

入園時は可成の高率を示したが、当方よりの指示により肝油ビタミン剤その他の補給並びに食改善指導により可成減少を示している。

毎 以上の結果も、小学校への入学には殆んど影響ないらしく、

精勤者、欠席多きものに共に大体同数入学している(備考らん参照のこと)

五、結果をふりかえつて

未だ統計数が少ない為、結果を医学的に利用すると云つた事は無

(註) 記号 男 51は、1952年(昭和27年)4月1日現在、13名男子、12名女子、6年(年齢は6日以内)の児童を教わす

記号	性別	欠席日数	眼	科	耳鼻咽喉科	内 科	ツベルクルン症 反対実施年月日	I. Q.		備 考
								愛育会 乙式	標準 乙式	
511	男	8(0)/523	ナ	シ	ナ	ナ	26.10.9	124	—	立教大学附属大泉小学校入学
512	ナ	7/230	ト	ラ	コ	ー	ナ	115	—	
513	ナ	0/228	ナ	シ	ナ	ナ	ナ	114	—	
514	ナ	5(3)/228	ナ	ナ	扁桃腺肥大	ナ	ナ	109	116	立教小学校入学
515	ナ	6/228	ナ	ナ	ナ	ナ	ナ	—	158	
516	ナ	7/228	ナ	ナ	ナ	ナ	ナ	—	116	
521	女	0/231	ナ	ナ	扁桃腺肥大	ナ	27.11.5	117	85	
522	男	0/231	ナ	ナ	ナ	ナ	ナ	111	111	
523	ナ	2/231	ナ	ナ	ナ	ナ	27.11.5	110	73	27.11. レントゲン異常ナシ
524	女	4/231	ロ	ホ	ー	性結核感染	ナ	133	111	
525	男	5/231	ナ	シ	扁桃腺肥大	ナ	27.11.5	117	110	
526	ナ	5/231	ナ	シ	扁桃腺肥大	ナ	ナ	115	143	
527	女	5/231	ナ	ナ	ナ	頸部リンパ腫脹	ナ	130	110	
528	男	3/231	ナ	ナ	ナ	ナ	ナ	115	116	
529	女	6/231	ナ	ナ	ナ	ナ	ナ	—	69	
5210	男	6/231	ナ	ナ	ナ	ナ	ナ	103	99	
5211	ナ	7/231	ナ	ナ	扁桃腺肥大	ナ	27.11.5	120	114	
5212	女	8/231	ナ	ナ	ナ	ナ	27.11.5	113	97	
5213	ナ	8/231	ナ	ナ	ナ	頸部リンパ腫脹	27.11.5	99	86	27.11. レントゲン異常ナシ

第三表 最近二カ年間精勤者健康状況

理であるが、総合的に見てかかる管理は決して無駄ではなく、可成 の効果を表わしたことが統計表より読み取れる。

(註) 療員14名中 男子6名 女子8名

記号	性別	欠席日数	眼	科	耳鼻咽喉科	内科	科	ツベルクル病の反復判定実施年月日	I・Q	養育会式団体	備	考
511	女	85/228	ナ	シ	ナ	頸部リンパ腫	頸部リンパ腫	/	130	94	94	お茶の水女子大附小入学
512	ナ	73	ナ	シ	ナ	ナ	ナ	26.10.9	—	81	26.10.9	レントゲン右上新職工
513	ナ	61	ナ	シ	ナ	扁桃腺リンパ腫	扁桃腺リンパ腫	ナ	115	122	122	
514	ナ	43	ナ	シ	ナ	扁桃腺リンパ腫	扁桃腺リンパ腫	ナ	111	90	90	
515	男	42	ナ	シ	ナ	扁桃腺リンパ腫	扁桃腺リンパ腫	ナ	—	—	—	
516	ナ	41	ナ	シ	ナ	扁桃腺リンパ腫	扁桃腺リンパ腫	ナ	—	77	77	
517	女	41	ナ	シ	ナ	扁桃腺リンパ腫	扁桃腺リンパ腫	ナ	107	87	87	慶応大学大塚小学校入学
521	女	84/151	ナ	シ	ナ	扁桃腺リンパ腫	扁桃腺リンパ腫	27.11.5	100	103	103	
522	男	83/231	ナ	シ	ナ	扁桃腺リンパ腫	扁桃腺リンパ腫	ナ	96	100	100	
523	女	67/231	ナ	シ	ナ	扁桃腺リンパ腫	扁桃腺リンパ腫	27.11.5	110	102	102	
524	男	63/231	ナ	シ	ナ	扁桃腺リンパ腫	扁桃腺リンパ腫	ナ	—	132	132	立教小学校入学
525	ナ	58/231	ナ	シ	ナ	扁桃腺リンパ腫	扁桃腺リンパ腫	27.11.5	120	102	102	
526	ナ	42/231	ナ	シ	ナ	扁桃腺リンパ腫	扁桃腺リンパ腫	ナ	124	91	91	
527	女	42/231	ナ	シ	ナ	扁桃腺リンパ腫	扁桃腺リンパ腫	27.4.24	120	114	26.5	レントゲンナシ

第四表 最近ニカ正間欠席日数40日以上ノ者ノ健康状況

現在の段階では未だ幼児のみを対照としたが、これでは不十分であくまで家庭を対照とすべきであらう。

又一部の保護者が管理への理解不十分の為伝播のおそれあるものを平気で放置し何度勧告してもこれに応じない事も多く、又一般保護者の衛生への無関心、非常識も恐るべきものがあり寒心すべき状

態である。この点、成人教育の必要性を痛感せしめられる。

よりよき設備と潤沢な経費は勿論必要である。しかし、設備は不完全でも、又多大の費用を必要としないでも、この程度の健康管理は幼稚園経営者の理解と熱により充分行い得ることが本報告の結論である。